

ひとみ

発行
相生市教育委員会
(人権教育推進室)
電話 23-7145
平成 28 年 2 月号
(第 28 号)

グラフで見る高齢者の人権

高齢者の人権において、特に問題があると思われること
(複数回答 選択は3つまで) 「平成 25 年度人権に関する県民意識調査」より

悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと

はたらく意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと

家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと

高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと

家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること

情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと

病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと

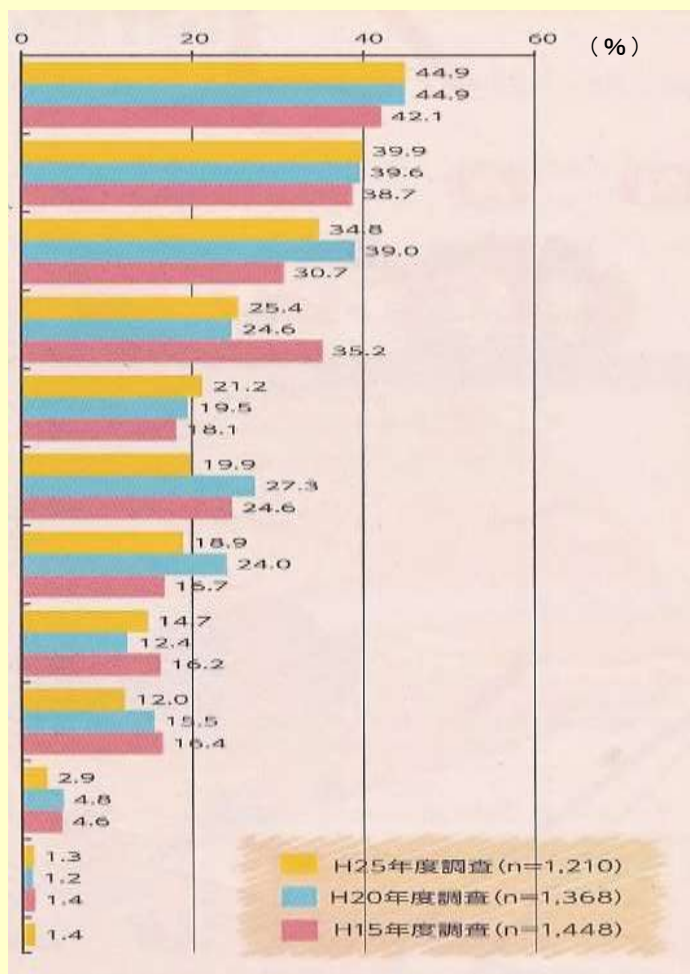
高齢者だけでは賃貸住宅等への入居が難しいこと

高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと

わからない

その他

無回答



悪徳商法や詐欺について、最近ではマイナンバー制度のスタートに便乗した「マイナンバー詐欺」が、テレビや新聞のニュースとして取り上げられています。実際に高齢者がターゲットになった事例もあります。手口は様々ですが、大きく分けると、「なりすまし型」「個人情報収集型」「便乗型」の3つがあると言われています。詳しくは次のページをご覧ください。

なりすまし型

電話や訪問で、官公庁・役所の職員、警察署の職員などになりすます詐欺のことで、「個人情報流出」「データ漏えい」と言った安全を脅かす言葉を使い、相手を怖がらせて巧みにだますものです。

「あなたのマイナンバーの情報が流出しています。登録を取り消しますので、必要経費を銀行で振り込んで下さい。」
「マイナンバーの情報が漏れる可能性があり、セキュリティを高める必要があります。必要経費をお支払いください。」



個人情報収集型

マイナンバー制度に乗じて、個人番号、家族構成、口座番号などを聞き出そうとするもので、振り込め詐欺などの事前調査として行われる可能性があります。

「マイナンバーの個人情報流出しています。あなたの銀行口座に被害が出ていないか確認するので、口座番号を教えてください。」
「マイナンバーが届いていると思いますが、市役所では一軒ごとに到着を確認しているので、届いているのであれば番号を教えてください。」

便乗型

マイナンバー制度とは直接関係なく、「マイナンバー制度スタート」という話題に便乗して、お金をだましとろうとする詐欺や勧誘などです。



「マイナンバーの通知カードが、いつ届くか 2 時間で調べることができます。有料ですが、お調べいたしましょうか。」
「マイナンバー制度が始まると、あなたの預金額などが公になってしまいます。今のうちに、金を購入して財産にしているほうがよいでしょう。」

マイナンバーの通知や利用、個人番号カード交付などの手続きにおいて 国や地方自治体職員等が、「**個人番号**」「**口座の暗証番号**」「**所得**」「**資産**」「**家族構成**」「**年金情報**」「**保険情報**」などを聞くこと、お金やキャッシュカードを要求すること、ATM の操作をお願いすることは、一切ありません。

《マイナンバー制度全般のご相談はこちら》

・マイナンバー総合フリーダイヤル 0120-95-0178

《不審な電話などを受けたらこちら》

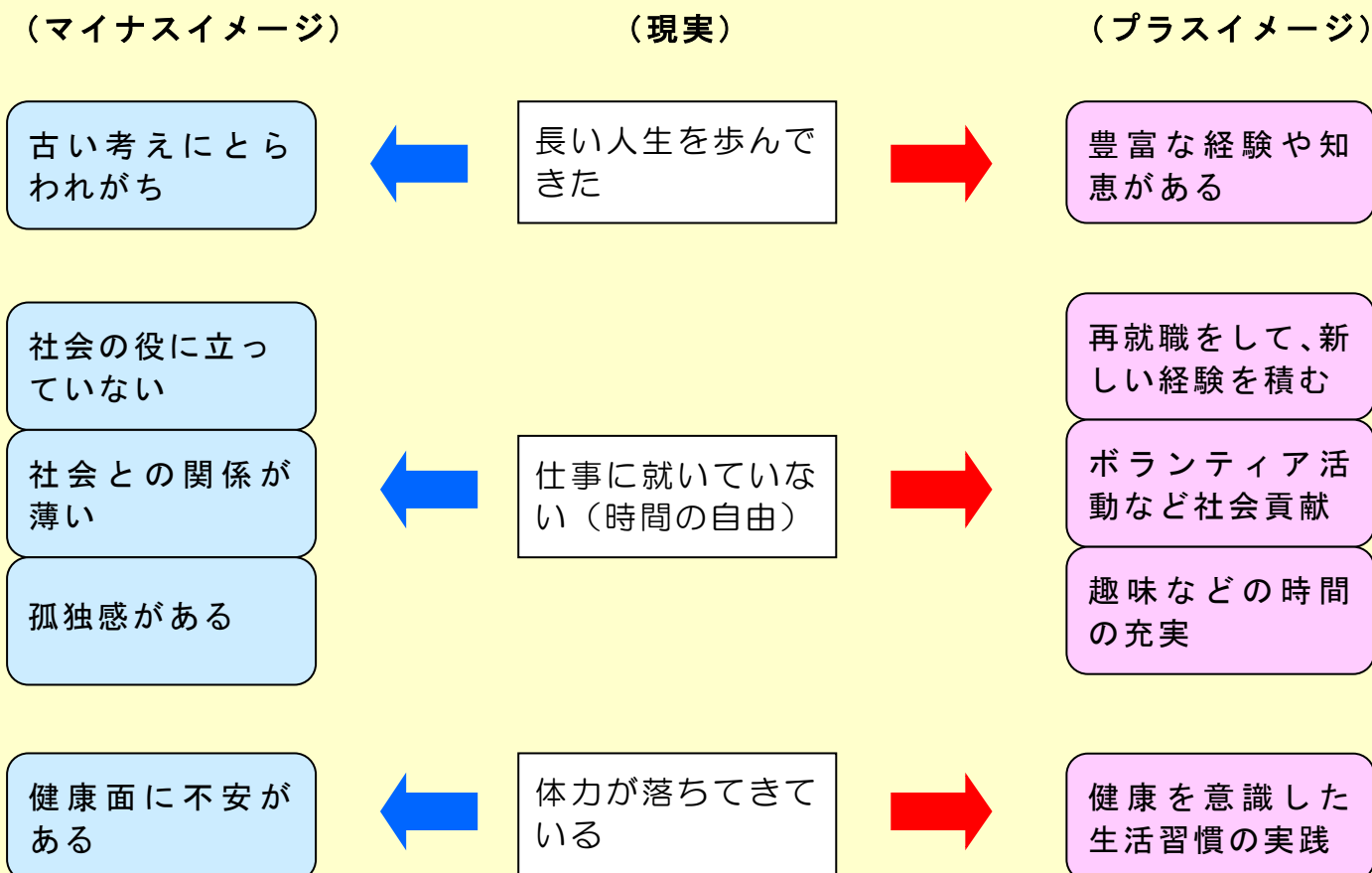
・消費者ホットライン 188（いやや!）

・警察 相談専用電話 #9110 又は最寄りの警察署まで

高齢者の方にどのようなイメージをお持ちですか？



「もう年なんだから…。」「年甲斐もなく…。」といった言葉を高齢者に対して言われているのを耳にすることがあります。「高齢であること」というのは、変えようのない事実です。マイナスのイメージで考えてしまうと、高齢者の行動を制限するなど、権利を奪ってしまう場合があります。しかし現実をどのようにとらえるかで、プラスのイメージにもなるのではないのでしょうか。



厚生労働省の調べによると、平成26年時点の男性の平均寿命は80,5歳、女性は86,4歳で、日本は、世界有数の長寿国となっています。

これまでに培われてきた人材のネットワークや豊富な知識といった高齢者の力を生かそうという取り組みが広がりを見せています。一方で、高齢者を狙った犯罪や介護における虐待や孤立など、高齢者の人権にかかわる問題も多く指摘されています。

高齢者が尊厳を保ちながら、生き生きと暮らし続けることができる社会について、考えていきたいですね。



まちの人権トピックス

平成27年度
少年の主張兵庫県大会
兵庫県知事賞受賞作品の紹介
(最優秀賞)

ロヒンギャの細い足

双葉中学校 3年 西村 友佑

父と半年ぶりのバックパック旅行。着いた初日に大きなショックを受けた。マレーシアのジョホールバル。東南アジアでは豊かな国の一つだ。夕暮れのバスステーションは多くの人が込み合っている。父と私は今夜の宿に向け歩き出した。すると、近くの路上に小学生くらいの男の子とお母さんが座っている。前にはプラスチックのケースが置かれている。「故郷に帰りたい」と僕にも解る英語で書かれ、その中には1リンギと5リンギのお札にコインが数枚。私たちは持っている小銭を全部入れた。彼らは無表情なまま、目はうつろで感情が無いかのよう。お金を入れても無反応なままだ。食事も摂れていないのだろう。男の子は、靴も履かず素足のままだ。足は驚くほど細く、太ももが私の腕ほどしかない。皮膚病らしく足には沢山のかさぶたがある。バスターミナルには沢山の人がいるが誰も気に留めていない。そこだけが誰にも見えてないかのようだ。

その夜、泊まったゲストハウスには、ヨーロッパの人が大勢いた。父が昼間の出来事を話すと、シンガポールからの旅人が教えてくれた。彼らは、ミャンマーから逃げてきたロヒンギャという民族であること。仮に帰国出来ても迫害されてしまうこと。人身売買の商品になることもあるらしい。人が人を売るなんて、私には信じられないような話だった。父もショックを受けていたようだった。翌朝、昨日のバスターミナルに行った。あの親子はもういなかった。追い出されてしまったのだろうか。弟と同じような歳の子どもが、帰る家もなく学校にも行けず、人身売買にあたりしている。ただ、悲しかった。

東南アジアの子どもたちは、とてもよく家のお手伝いをする。食堂やお店でも小学生くらいの子どもたちがお手伝いをしている。でも、みんないきいきとしているし笑顔だ。ビーチで、一緒に遊んでいても明るい。彼らは学校にも通っているし、英語なんか日本人より上手い。帰る家もあれば、家族とも一緒だ。学校には友達もいるだろうし、勉強することもできる。食事や習慣は違っても、私たち日本での暮らしと似ている。だが、ジョホールバルで見たロヒンギャの親子は、それ

もできない。無表情で、何かを諦めたような悲しい目で遠くを見つめていた。日本に戻ってから忘れられない。

ロヒンギャのことを調べてみた。仏教国のミャンマーでは少数派のイスラム教徒。国内で迫害を受け、同じイスラム教の国であるマレーシアやインドネシアをめざしているという。だが、苦労して渡ってきたマレーシアでは働く許可が出ないことが多いらしい。私たちが会った親子もきっとそんなロヒンギャの人たちだったのだろう。

世界には、民族や宗教、人種が違っただけで受け入れてもらえない人たちがいる。以前は、違う民族の人たちと話すことなど想像もできなかったし、少し怖かった。日本の相生で暮らしていると、ほとんどが日本人で日本語を話している。文化や習慣も同じだ。だが、海外に出ると、その国の人たちにとっては、私たちの文化は違ったものだ。最初は珍しそうに私たちを見る。そして、笑顔で話しかけてくる。「日本では、何を食べているの?」「うちの国は暑くない?」という風に笑顔で話しかけてくれる。『興味を持っているよ』というメッセージを伝えてくれる。しかし、私たちが会ったロヒンギャの親子に、誰も興味を示していなかった。明らかに困っているのに、誰もが目をそらしていたのだ。私だって、『少しでも早く』とその場を立ち去ってしまったのだ。あの親子の悲しい目と無表情から逃げたかったのだと思う。あの時の私は、弱かった。

日本でも、『みんなと違う』『変わっている』『なんか違う』という事で、興味を持ってもらえない人たちがいる。時には、いじめられたりする。私は、その時に無関心でいることが多かったように思う。本当は、みんな違っているのは当たり前なのだ。同じ人間はいる訳がない。その時に、無関心のまま通り過ぎる人が多いと、その人たちは孤立してしまう。私は、そんな時に目をそらさず、話しかける勇気を持ちたい。彼らの困難を一つでもなくせる強さを持ちたい。次にロヒンギャの人たちに会ったら、言葉が通じるかは分からないが、話しかけてみよう。そして、彼らの隣に座って話が聞きたい。そのことは、とても失礼なのかもしれない。確かに、私は豊かな国にいて、生きていく困難もない。だが、そうしないではいけないのだ。私も、時々、孤独だったから、彼らの気持ちが少しは分かる気がする。まず、興味を持って話しかけること。寄り添うことから始めようと思う。今すぐには無理でも、きっと助け合える日が来る。そう信じている。





「まちかどじんけん特派員」からのお願い

10月23日午後3時20分ごろ、市役所で用事を終えて自転車で帰宅途中、大島山の下の橋のたもとで、那波小学校男子児童が一人で下校していたのを見かけ、目と目があつたので声をかけようと思ったら、先に彼が大きな声で「こんにちは！」と声をかけてくれました。私も大きな声で「こんにちは！お帰り！気をつけてね。」と返すと彼はにこっと笑って帰っていきました。

今、市内で「あいさつ運動」が展開されていますが、学校における児童たちへの先生方のあいさつについての取組が、彼の笑顔に象徴されているように見えました。先生方の変身はうかがい知ることができませんが、心から敬意を表したいと思います。

また、児童たちの勇気と素直さについても心から応援させていただきます。街中で児童生徒に声をかけるのはばかり世の中ですが、明るい小さなニュースではありますが、久しぶりに「ほっこり」となりました。（一部抜粋）

※ 那波小に届けられた匿名の投書が、あいさつという言葉のキャッチボールを通して、お互いの心が通い合ったような体験談だったと伺いました。心温まる内容でしたので、市民の方にお知らせいたしたく、掲載させていただいております。



今回の投書の方のほかに、「登下校の時に、子どもの方から声をかけてくれる。」「子どもたちの登校の付き添いをしていても、元気なあいさつをしてくれて、気持ちがあつたくなる。」などのお話を伺っています。

人と人とのつながりを考える際、あいさつはきっかけとなり、つながりを維持していく接着剤となり、相手を思いやる心を言葉に変えたメッセージとなります。これからも大切にしたいですね。

上記のような、まちかどの「心あたたまる」出来事、ほっとな情報をご紹介します。ご連絡方法は手紙、FAX、メールでお願いします。ご応募いただいた方には、粗品（啓発用品）を進呈いたします。

《 連絡先 》 〒678-0031 相生市旭一丁目3番18号

FAX 0791-23-7148 メール jinkenkyoiku@city.aioi.lg.jp

「おとなの人権教室」

「おとなの人権教室」と題して、兵庫県内の子どもたちが人権教育で活用している教材を紹介します。それらの教育内容にふれていただくとともに、人権についての考えを深める機会としていただければと思います。

下の資料は小学3・4年生用人権教育資料「ほほえみ」(兵庫県教育委員会)にある「おい、わたしの口」です。

おい、わたしの口

わたしの口は、とんでもない。

「きのう、何しとったん。」

みっちゃんは何回も何回も聞いてくるので、わたしは、つい、「うるさいなあ。」と言ってしまった。

そしたら、ゆうちゃんが、

「みっちゃんは、ただ聞いているだけやん。」と言った。

わたしは、何だかよいけいにはらが立ってきて、

「あんたにはかん係ないやろ。」と言ってしまった。

後で二人にあやまろうと思ったけど、

「ごめんね。」が言えなかった。

そう、わたしの口は、自分が、

「ごめん。」と言わなければならぬときほど、

よけいなことばかり言ってしまう。

それでいつもすごいけんかになってしまう。

わたしは、勉強が始まって、どうして

「ごめんね。」が言えないんだろう、

どうしてあんなこと言ってしまうんだろう、

ゆうちゃんやみっちゃんとなかなおりしたいと、

ずっとずっと思い続けていた。

そんなある日、

「ごめんね。」と、ゆうちゃんの方から言ってくれた。

本当だったら、わたしの方から言わないといけないのに。

「ゆうちゃん、ごめんね。」と、あわててわたしも言った。

てれくさかったけど、うれしかった。

みっちゃんにもあやまろうと思ひ、ゆうきを出して、

「ごめんね。」と言った。

ゆるしてくれるかすごく心配で、ときどきした。

すると、みっちゃんが、

「うん。」と言って、にっこりしてくれた。

おい、わたしの口・・・



よりよい人間関係を築いていくために、相手に対する自分の言動を振り返り、改めようとすることは、とても大切なことです。また、相手に自分の思いや気持ちを伝えるための表現方法を考え、実践していくことは、人と人とのつながりを大切にしたい共に生きる社会づくりにつながります。



「ひとみ 11 月号」人権クロスワードパズルの 答えおよび「ひとみ」の感想

【答え】「おもいやり」の心

たくさんのご応募ありがとうございました。応募者（正解者）の中から抽選により「2016 こころカレンダー」をお届けしました。また、たくさんのご感想をありがとうございました。今後の参考とさせていただきます。

「まちかどじんけん特派員」の方が書いておられること、私もいつも思っていました。同じように思っている人が増えていけばいいですね。

思いやりの心を心がけたいです。

人権作文の受賞者の作品を拝読し、現代の子どもたちの考え方に安心しました。このまま、すくすくと育ててほしいです。

自分から相手に合わせることが大切なことだと思います。



普段、人権教育とは関わりが薄いと思いがちです。特に、「しつけ」と「虐待」との線引きが難しい点、同感です。夫婦間、同世代の親同士の対話、コミュニケーションが大切と感じます。

「人権ふれ愛コンサート」感想

人権ふれ愛コンサート（12月5日開催）へのご参加ありがとうございました。森祐理さんのやさしく、そして思いが詰まった歌声が、会場いっぱいに広がりました。



〈感想・ご意見〉

- ・優しい歌声と心温まる言葉に涙があふれました。
- ・心が洗われるような歌声で、心がほっこりあたたかくなりました。
- ・いつも当たり前と思って過ごしてきた自分を振り返ることができ、感謝することを思い出すことができました。歌のもつ大きな力を体感することができました。
- ・忘れていた大切な事をいろいろ思い出しながら聞かせていただきました。家族や、周囲の人を大切に思い、一日一日を大切にしていきたいと思います。
- ・震災のことを思い出しました。今日からやさしくなれそうです。
- ・忙しい生活に追われている毎日で、すごくゆったりと考え、心いやされる時間が持てて良かったです。
- ・胸にずしんとひびきました。ありがとうございました。